

調査結果の概要

1 発育状態について

愛媛県の子どもの発育状態を、全国平均や平成 30 年度の県平均と比較してみると次のようになる。

県平均：公立幼稚園、小・中・高等学校の悉皆調査による
全国平均：文部科学省が実施した学校保健統計（抽出調査）による

（1）身長

前年度県平均との比較では、男女とも 6 歳から 17 歳の各年齢でほぼ前年度と同じである。

全国平均との比較では、男女とも全ての年齢で下回っている。

・男子は、前年度県平均と比べ、7 歳、9 歳、10 歳、12 歳、17 歳が上回り、6 歳、8 歳、11 歳、15 歳が下回っているが、差は最大で +0.3 cm と -0.2 cm であり、前年度と大きな変化はない。

また、全国平均と比べると、全ての年齢で、0.5~1.0 cm 下回っている。

・女子は、前年度県平均と比べ、12 歳、15 歳、16 歳が上回り、7 歳、8 歳、10 歳、13 歳、17 歳が下回っているが、差は最大で ±0.2 cm であり、前年度と大きな変化はない。

また、全国平均と比べると、全ての年齢で、0.6~0.9 cm 下回っている。

（2）体重

前年度県平均との比較では、8 歳の男子のみ下回っている。

全国平均との比較では、男子の 9 歳と 12 歳、女子は 12 歳から 15 歳までと 17 歳を除いた年齢で下回っている。

・男子は、前年度県平均と比べ、8 歳のみ下回っており、差は +0.5~-0.1 kg であり、前年度と大きな変化はない。

また、全国平均と比べると、9 歳と 12 歳を除き 0.1~0.6 kg 下回っている。

・女子は、前年度県平均と比べ、すべての年齢で同じか上回っているが、その差は 0.0~0.3 kg であり、前年度と大きな変化はない。

また、全国平均と比べると、12 歳~14 歳までが 0.1~0.3 kg 上回っているが、6~11 歳、16 歳で 0.1~0.5 kg 下回っている。

身体の発育と運動は非常に密接な関係があることから、今後も、学校生活や日常生活の中で、積極的に体育活動に取り組むように促すとともに、望ましい生活習慣を身に付けられるように各学校の実態に応じて指導していくことが大切である。

2 疾病状況について

疾病状況について、疾病・異常のある者の率を全国平均や平成30年度の県の平均等と比較してみると次のようになる。

(1) 脊柱・胸郭・四肢異常（※四肢が平成28年度から追加された）

前年度の県平均との比較では、幼稚園の男子、中学校の男女において上回っている。

また、全国平均との比較でも、幼稚園の男子、中学校の男女において上回っている。

(2) 裸眼視力（1.0未満）

前年度の県平均との比較では、小・中学校の男女において上回っており、ここ数年上昇傾向が継続している。

また、全国平均との比較ではすべての校種で上回っている。

(3) う歯（むし歯）

前年度の県平均との比較では、高等学校の男女のみ「未処置歯のある者」の率は高くなっているが、全体的に下降気味である。

また、中学校の男子と高等学校の男女が全国平均を下回っている。

(4) 心臓の疾病・異常

前年度の県平均との比較では、幼稚園の女子、小学校の男子、高等学校の男子が上回っている。

また、幼稚園の男女、高等学校の男子以外は全国平均を上回っている。

(5) 腎臓疾患

前年度の県平均との比較では、中学校の男女、高等学校の女子で上回っている。

また、高等学校の女子のみが全国平均を上回っている。

健康診断や、日常の健康観察の結果を踏まえ、医療機関での精密検査や、治療を勧め、必要な事後措置を行うことは重要である。

保護者や関係機関等と連携を図りながら、今後も健康相談や保健指導を通して、一人ひとりの健康状態の把握や管理に努めることが望まれる。